

# 大学教育改革地域フォーラムin京都華頂大学・華頂短期大学(10/6) の様子



会場の様子



壇上の様子



パネリスト発表の様子



会場の質疑応答の様子

## 第15回大学教育改革地域フォーラムの結果

【名称】大学教育改革地域フォーラム2012 in 山形大学

【日時】平成24年10月15日(月)14:00~17:00

【テーマ】大学等での学びを通じて地域課題とどう向き合うか

—今、高等教育機関は地域に向けて発信する—

【形式】パネルディスカッション

(モデレーター) 三上英司(山形大学理事付スタッフ・地域教育文化学部教授)

(パネリスト) 常盤 豊(文部科学省大臣官房審議官(高等教育局担当))

瀬瀬 晃(株式会社東北博報堂顧問)

柳谷豊彦(山形県高等学校長会会長・山形県立山形東高等学校校長)

児玉克也(山形大学卒業生・株式会社山形銀行本店営業部本店第二部長)

佐藤桃江(山形大学学生・地域教育文化学部4年)

佐藤琢磨(山形大学学生・理学部3年)

結城章夫(山形大学学長)

(総合司会) 本間知美(山形大学学生・人文学部2年)

【参加者】213名(学生:72名、大学関係者(教職員):92名、その他:49名)

### 【パネリストの主な発表内容】

- アルバイトをしないと生活ができないため、勉強よりアルバイトを優先せざるをえないという学生が周りに多くいる。
- 教養科目を勉強していたときはモチベーションが高まらなかったが、専門科目を勉強するようになって自分がやりたかった勉強ができるようになったため、教養を学んでいた頃より主体的に学ぶようになった。
- 就職活動で企業に求められるものと大学の授業で教授から求められるものに大きな差があり、大学の授業が本当に必要かどうか疑問に思うことがある。
- 教育実習の経験を通して、先に現場を経験してから理論を学ぶことも効果的ではないかと感じた。実際に現場を経験してから理論を学んだ方が、理論の必要性がより実感できる。
- 知的好奇心をそそられるような授業がもっとあれば、より主体的に勉強するようになるのではないか。
- 知識を身につけるための講義型の授業(一方向の授業)と、演習形式の授業(学生が主体となる授業)は共に重要であり、両タイプの授業をしっかりと学ぶことのできるカリキュラムを作っていくべき。
- 大学の早い段階で社会見学や職場体験等を導入すべき。現場を体験することでこれから大学で学ぶ内容と社会とのつながりが見え、目標ができるとともに、学ぶ意欲が湧いてくる。
- 企業は「粒揃い」な人材ではなく、多様な角度からものごとを捉え、多様な課題に対して解決策を見出すことができる「粒違い」な人材を求めている。
- 以前に比べ高等教育進学率が増加傾向にあり、高等教育に進む高校生間の意識・学力に大きな幅が生じている。高等教育はそういった多様な学生を受け入れ、大学の学びを進めていく準備が必要。
- 学士課程教育の充実はやはり重要。特に、様々な経験を基礎とした「教養(分厚い人間力)」の形成に大学では取り組んで欲しい。
- 大学での学生の学びが地域の活性化に活かされるような大学と地域の関係が今後重要になってくる。企業も積極的に連携をしていきたい。
- 企業は、コミュニケーション能力が高く、バイタリティを持っている人材を求めている。学生時代に多様な経験(成功・失敗体験)をしていることが、バイタリティのある人材を育てる。
- 学士課程教育全体を通じた、教育内容の一貫性・整合性・総合性の確保が今後の課題。
- 地域が必要とする中核人材を育成する事が大学の重要な役割でもあり、大学が地(知)の拠点として、地域の発展に責任を持つことが重要。

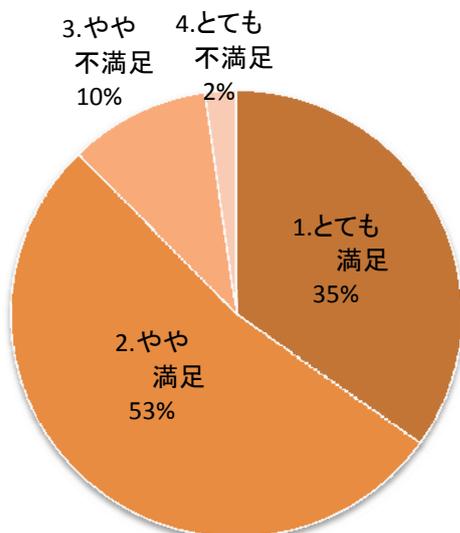
【会場参加者も含めたディスカッションにおける主な意見等】

- 社会体験や地域の現実的な課題と向き合うことを通して、学生の大学での学びに対して強い動機付けをすることが重要。そのためにも、より早い時期に大学による社会貢献活動を促すよう、大学のカリキュラムを改革していくべき。
- 「社会における基礎力」とは、「自分の頭で物事を考えそれを行動に移す力」、「他者と共同する力」の2点。こういった力は、大学のみで育てられるものではないので、今回の大学改革の議論が初等中等教育の改革の動きと連動して行われていくことを期待。
- 働いている人や研究者の話の聞くだけでも学びに対するモチベーションは変わってくると思う。専門的な知識を得る前に、研究者の方から話を聞くだけで今後の学びに対する動機付けにつながる。
- 大学では、挑戦する意欲や、卒論の様に自分の考えをまとめ上げて説得していく力が鍛えられていくべき。一方、周りから信頼される人徳などは、一生かけて身につけていくべき。
- 大学での学びを改善していくために、教員の資質をもっと高めるべきではないか。
- 出席のみで単位を与えるような授業は、授業内の勉強のみで単位が取れてしまうということ。本来は、授業内・授業外での学修を通じて単位取得をすることになっている。
- 教員には、研究者のみでなく、教育者としての自覚もしっかりと持って欲しい。現場で身をもって体験したことを教えてくれる教員がいる一方で、学生に自分の研究の話のただしているだけの教員がいるのは残念。研究内容を軸にしつつも、教育をする教員であるべき。
- 高校と大学の根本的な違いは、先生が研究者であるということ。本来、研究者こそが一番求められている問題解決能力を有しているはずなので、その能力を、次の世代の人材育成にも活かして欲しい。
- いわゆる全入時代となっている現在においては、大学での学びと高校までの学びとの間に、何が共通していて、また、何が違うのかを示し、かつ、入学者がそれを理解していることが重要。
- 大学教員は、研究の実績はあるが、教育の仕方については免許を持っているわけではない。教員の自覚・向上心・自己研鑽に期待しており、大学としては、教員同士がよく話し合い、教育力を高めていく努力(FD)について全面的に支援していきたい。
- 今の大学生は生まれたときから「不景気」だと言われ続けている。企業は熱い心を持った人を求めていると言うが、学生の闘争心に火をつけてくれるような大人が必要ではないか。

【学生を含めた参加者を対象とした主なアンケート結果※】

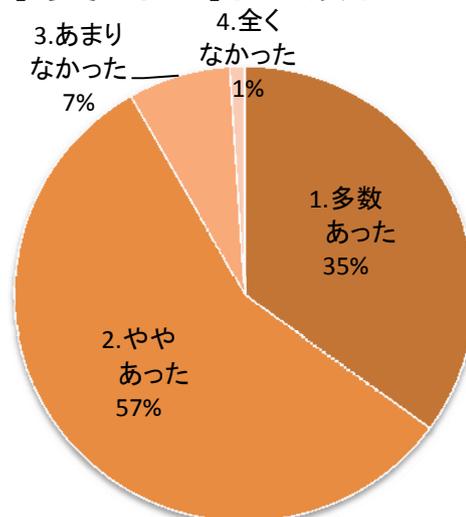
※回収率=約47%(101人/213人)

Q.本日参加された満足度をお聞かせください。



満足度:88%

Q.フォーラム参加の発言・コメントの中に「ためになった」「参考になった」ものはありましたか？



参考になるコメントあり:92%

## 大学教育改革地域フォーラム2012 in 山形大学

- 日時：平成24年10月15日（月）14：00～17：00（13：30受付開始）
- 会場：ホテルキャッスル TEL 023-631-3311 / FAX 023-631-3373  
（所在地：〒990-0031 山形市十日町4丁目2番7号）
- 趣旨： 地域の成長と発展のためには、それを推進する多種多様な人材（地域人材）の育成が欠かせない。平成24年8月28日中央教育審議会答申「新たな未来を築くための大学教育の質的転換に向けて～生涯学び続け、主体的に考える力を育成する大学へ～」を踏まえ、大学教育の質的な転換を図るために山形大学が主導し、必要な課題や具体的な取組等について地域の各教育機関、経済人、学生等によるフォーラムを開催する。
- フォーラムでは、「地域の課題解決のために、大学等での学びの『質』をどのように『保証』して行くべきか」をテーマに、複数のパネリストによる提言等を踏まえ、大学改革実行プランで謳われている「大学COC（Center of Community）機能の強化」の新たな方向性について議論を展開する。社会や学び手自身と問題意識を共有する中で、地域に根ざす高等教育機関が現に果たしている人材育成の目的、実践、意義を発信するとともに、今後の課題を具体的に明らかにする。
- 【議論の主なテーマ】
- ・ 学士課程教育の充実（山形大学の教育改革「基盤教育」を紹介。）
  - ・ 地域社会が大学（高等教育）に期待する人材像及び地域との連携
  - ・ 大学教育に求められる「質の保証」
  - ・ 高校サイドからみる大学教育のあるべき姿（初等・中等教育を含む。）
  - ・ 大学生の主体的な学びと学修時間の確保（学生の生活実態を把握。）
- 主催：山形大学、共催：文部科学省、後援：大学コンソーシアムやまがた
- 対象：大学生、教職員、一般市民
- パネリスト：（7名）
- ・ 常盤 豊様（文部科学省大臣官房審議官高等教育局担当）
  - ・ 瀬瀬 晃様（株式会社東北博報堂顧問）
  - ・ 柳谷豊彦様（山形県高等学校長会会長・山形県立山形東高等学校校長）
  - ・ 児玉克也様（山形大学の卒業生・株式会社山形銀行本店営業部本店第二部長）
  - ・ 佐藤桃江様（山形大学学生・地域教育文化学部4年）
  - ・ 佐藤琢磨様（山形大学学生・理学部3年）
  - ・ 結城章夫（山形大学学長）
- 総合司会：山形大学学生 本間知美（人文学部法経政策学科2年）
- モデレーター：三上英司（山形大学理事付スタッフ・地域教育文化学部教授）
- フォーラムのテーマ：  
大学等での学びを通じて地域課題とどう向き合うか。  
ー今、高等教育機関は地域に向けて発信するー
- 当日のプログラム日程：
- [I. 開会]
- 14：00 開会（総合司会）  
14：00 主催者挨拶（山形大学長 結城章夫）
- [II. フォーラム]
- 14：10 問題提起映像の上映「今、問われる『大学での学び』」（15分）  
14：25 パネリスト①（常盤 豊様）からの発表（5分程度）  
パネリスト②（佐藤桃江様）からの発表（5分程度）  
パネリスト③（佐藤琢磨様）からの発表（5分程度）  
～ パネリスト④（瀬瀬 晃様）からの発表（5分程度）  
パネリスト⑤（柳谷豊彦様）からの発表（5分程度）  
パネリスト⑥（児玉克也様）からの発表（5分程度）  
パネリスト⑦（結城章夫）からの発表（5分程度）
- 15：05 休憩（15分）  
15：20 パネリストによる質疑応答とフロア参加者との討論  
16：50 モデレーターによる総括・議論のまとめ
- [III. 閉会]
- 17：00 閉会（総合司会）

# 大学教育改革地域フォーラムin山形大学(10/15)の様子



会場の様子



壇上の様子



パネリスト発表の様子



パネルディスカッションの様子